

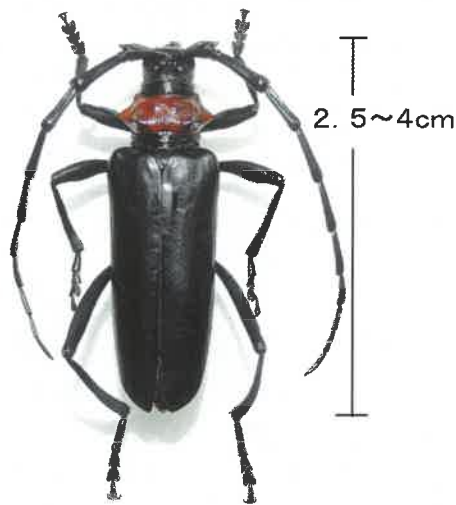
クビアカツヤカミキリ

にご注意ください

本虫を見つけた場合は**その場で捕殺**してください

クビアカツヤカミキリは、海外から侵入し、生態系等に問題を引き起こすとして、特定外来生物に指定されています。

県内では、利根川や綾瀬川沿いの市で、サクラやウメ、モモ等に被害が確認されています。



成虫は全体に光沢のある黒色で、首回り（前胸背板）の赤色が特徴です。

6月～8月上旬に現れ、樹皮の割れ目に産卵し、繁殖力が旺盛です。



幼虫の期間は2～3年。春～秋に樹木を摂食し、範囲は心材にまで及ぶ。



幼虫は、モモ、スモモ、ウメ、サクラ等の主にバラ科樹木の内部を激しく食い荒らし、大量のフラス（糞と木屑が混ざったもの）を排出します。

1本の樹体に複数の個体が侵入すると、樹体が枯死することもあります。

県内での被害の様子



防除対策 — 早期発見、早期防除が極めて重要 —

- 本虫を見つけた場合は、その場で捕殺してください。
- 被害の拡大防止には、伐採処理が最も有効です。伐採した木は放置せず、焼却処分をしてください。
- 伐採処理できない場合には、フラス排出孔から登録農薬を注入し幼虫を駆除するか、登録農薬を散布してください。併せて、成虫の分散防止のため、羽化期（6～8月）前に、幹にネット（目合4mm以下）を巻くなどの処理をしてください。

クビアカツヤカミキリに使用できる農薬

令和3年6月現在

農薬の名称 (農薬の種類)	適用作物	希釈倍率	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	
ロビンフッド ベニカカミキリムシエアゾール (フェンプロパトリンエアゾール)	果樹類(注1)	—	収穫前日まで	5回以内 (注2)	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	
パイオリサ・カミキリ (ポーベリア プロンニアティ剤)	果樹類	—	成虫発生初期	—	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける(1樹あたり1本)	
パイオセーフ (スタイナーネマ カーボカプサエ剤)	もも・うめ	—	幼虫発生期	—	木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入(散布液量2.5L)	
アクタラ顆粒水溶剤 (チアトキサム水溶剤)	もも・ネクタリン	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布 200L～700L/10a	
	おうとう		収穫7日前まで	2回以内		
	小粒核果類(注3)					
アクセルフロアブル (メタフルミゾン水和剤)	うめ	1000倍	収穫前日まで	3回以内		
スプラサイド水和剤 (DMTP水和剤)	うめ・すもも	1500倍	収穫14日前まで	2回以内		
	もも		収穫21日前まで			
テツパン液剤 (シクラニプロール液剤)	すもも・もも	2000倍	収穫前日まで	2回以内		
モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド水溶剤)	もも・小粒核果類 (注3)	2000倍	収穫前日まで	3回以内		
	おうとう			1回以内		

- (注1) いちよう(種子)、くり、ペカン、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)を除く。
 (注2) 農薬成分のフェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数は樹種ごとに異なる。
 (注3) 小粒核果類とは、あんず、うめ、すもも(プラム、ブルーベリーも含む)が含まれる。

農薬使用に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

本虫による農作物被害については、埼玉県病害虫防除所まで御連絡ください。
 (熊谷市須賀広784 電話：048-539-0661)

令和3年6月 発行:埼玉県農林部農産物安全課
 写真提供:埼玉県環境科学国際センター



※本虫のより詳しい生態については、『埼玉県環境科学国際センター・ホームページ』で確認できます。